

経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

1. 資本供与農業取組み

(1) 会津農匠株式会社への復興ファンド出資

農林中央金庫 福島支店 (福島県)

新規	継続
○	
	(平成 年 月)

1 動機(経緯)	<p>当ファンドは、東日本大震災で被災された農林水産業者に、長期にわたり安定した支援を行うため、農林中央金庫が平成 23 年に創設しました。</p> <p>今回の投資先である会津農匠株式会社は、福島県喜多方市慶徳町できゅうり 70a、水稲 13ha の栽培を行う地域の中核となる農業法人であり、当社の経営安定や新規事業を後押しするために出資を行いました。</p>
2 概要	<p>当社は、東日本大震災の原発事故に伴う風評被害払拭に向け、経営力の強化を目的に、平成 24 年 3 月に法人化し、放射能測定結果をホームページにて発信するなど安心・安全の PR に取り組んでいます。</p> <p>また、農業高校、農業大学からの研修生受入れや若手農業者に対する助言など、次世代の農業担い手育成にも力を入れており、研修生受入れをきっかけとした若手の従業員採用も行っています。</p> <p>これらの取組みは、地域の農業復興と活性化に繋がるものと考え、当社に対する金融面での助言(コンサルティング機能の提供)を行うとともに、中長期的な財務基盤の安定化に向けた金融対応として、アグリビジネス投資育成株式会社と連携のうえ出資を行いました。</p>
3 成果(効果)	<p>当社は通年雇用を確立するため、菌床しいたけなど冬期間の収入源となる栽培品目の導入も目指しており、本件出資を通じ、当社の計画実現を後押しすることができました。</p>
4 今後の予定	<p>引き続き「復興支援プログラム」を通じて、被災された農林水産業者の復興支援を継続して参ります。</p>